

「県立高校魅力化ビジョン」に基づく
地域との連携・協働による
新しい高等学校づくり

令和元年10月23日（水）

島根県教育委員会

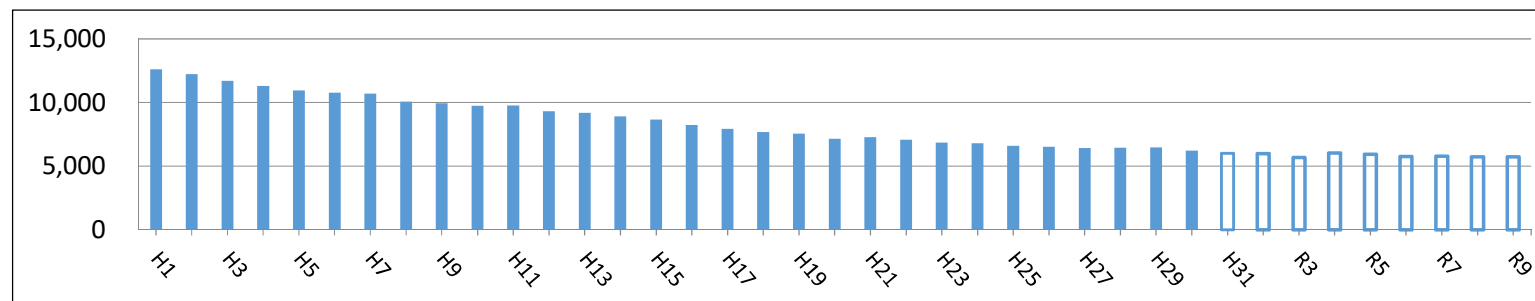
「県立高校魅力化ビジョン」策定の背景



■ 中学校卒業生数の減少

平成元年 3月 約12,600人（直近のピーク）

平成30年 3月 約 6,200人



■ 平成30年 4月 全日課程第1学年度 1校あたりの学級数平均 3.77

（平成21年2月策定「県立高校再編成基本計画」における望ましい学級規模

= 1学年4学級以上8学級以内）

■ 「教育の魅力化」の取組（平成23年度～中山間地域・離島の「高校魅力化事業」）

学校と地域社会が子どもの育成に関する目標を共有し、協働を図りながら、島根の教育をよりよりよいものに高め、あわせて地域の魅力にもつなげる

- 全ての高校が「教育の魅力化」の考え方を地域社会と共有し、地域資源を活かしながら魅力ある高校づくりを推進する
- 生徒の個性や適性に応じた多様な学びを追求できる体制、望ましい教育環境を整える

第1章 「生きる力」を育む魅力ある高校と地域づくりの推進

- 地域に根ざした小さな高校が魅けた大きな教育効果を
すべての県立高校と地域に広げ、島根らしい魅力ある高校づくりを進める -

第2章 生徒自らが選び、学び、夢を叶える高校づくりの推進

- 主体的な学習を促し、個性、適性、志向性に応じた多様な学びを
生徒一人一人が追求できる、魅力ある高校づくりを進める -

第3章 将来を見通した教育環境の整備

- 将来を見通した各高校・指導の在り方の実現に向けた環境整備を推進する -

第1章 1 地域協働スクール（地域とともにある学校）の実現

- 「目指す学校像」、「育てたい生徒像」、特色ある教育課程、「求める生徒像」等の明確化
- 地域、地元市町村等が学校運営・経営に参画し、魅力ある高校づくりに取り組む協働体制（高校魅力化コンソーシアム）を、各校の実情に応じて構築・強化し、全県で展開

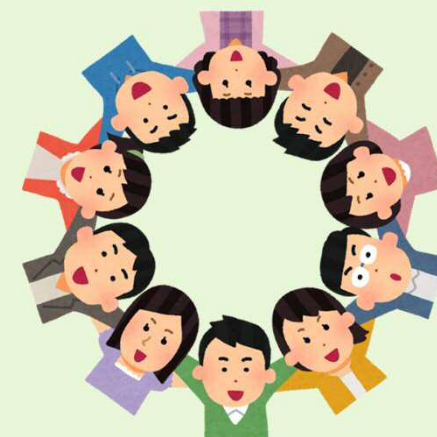
高校教育魅力化協議会等、既存の連携組織の活用

総合調整を担う職員の配置

高校事務室の体制の充実

高校魅力化推進チームの体制充実・機能強化

寄附制度等



高校魅力化事業（平成23～令和元年度）

【事業概要】

中山間地域・離島の市町村に設置されている県立高校と地域が一体となって実施する高等学校魅力化の取り組みを支援

【対象者】

高校と立地市町村等で構成される団体（「高校魅力化協議会」等）

【留意事項】

コーディネーターの配置等により高校と地域との連携を強化

コンソーシアム構築先導モデル事業（令和元～2年度）

【事業目的】

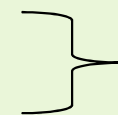
高校魅力化コンソーシアムの先導モデルを構築し、その知見等を県内で広く共有

【事業内容】

- (1) 先導モデル（中山間地域型・都市型・一自治体複数校型）の構築
 - ・専任スタッフを配置し、コンソーシアム構築を支援
 - ・得られた知見等を集約し構築マニュアルを作成
- (2) 全県立高校等を対象とした研修会の開催
 - ・構築に関わる知見等について研修会等を通じ広く共有

第1章 2 地域資源を活用した特色ある教育課程の構築

- ・ 全ての高校において地域課題解決型学習を実施
- ・ 地域課題解決型学習の促進支援
- ・ 教育魅力化コーディネーターの養成・育成
- ・ 教職員の意識向上、学校体制の構築



島根大学、県立大学等
と連携・協働

第1章 3 多様な学びの保障

- ・ 生徒の多様性を尊重しつつ、個に応じた教育への取組
- ・ 多様な学びの保障に向けた教員の任用・配置
- ・ ICTを活用した同時双方向遠隔授業や高校間交流等の研究
- ・ 幅広い地域人材・外部人材の活用



第1章 4 「学びの成果」の捉え方・示し方の開発と、学校評価の改善

- ・ 狭義の学力のみにとどまらない幅広い資質・能力を多面的に評価

↑↓
島根大学、県立大学等と連携・協働

- ・ 高校魅力化の取組にかかる実効性の高い評価システム（ICTの活用等）
- ・ 「目指す学校像」や「育てたい生徒像」に基づいた、地域社会に開かれた学校評価

第1章 5 「しまね留学」の推進

- ・ 各高校と地元市町村等との協働による推進
- ・ 高校魅力化コンソーシアム等において、「求める生徒像」や受入体制等の共有
- ・ 関係機関との連携による効果的・効率的な募集と情報発信
- ・ 県、市町村、高校で連携した受入体制整備



高校魅力化評価システム

【システム概要】

生徒の教育環境の見える化、生徒の成長の見える化により、授業・指導の改善や、地域との協働のあり方の検討・検証を支援する評価ツール

【特徴】

1 「社会に開かれた教育課程」に求められる資質・能力要素を多面的に把握

* 主体性 * 協働性 * 探究性 * 社会性

2 生徒の学習環境（学びの土壌）を把握

* 安心・安全の土壌 * 多様性の土壌 * 対話の土壌 * 開かれた土壌

【対象・方法】

高校の生徒、教員、地域の大人にアンケート調査を実施（Web回答）

しまね留学の推進(平成22年度～)

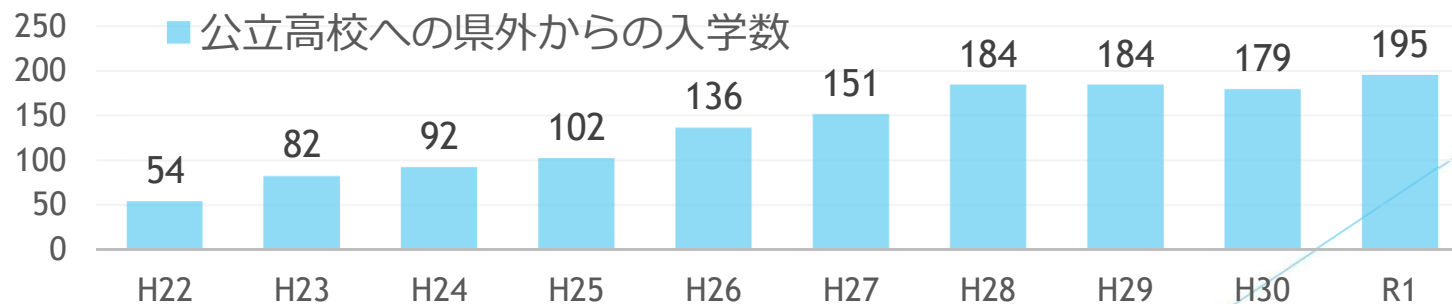


【意義】

多様な価値観との出会いや切磋琢磨を通しての視野の広がり、交流の拡大やコミュニケーション力の向上、地域の魅力や課題の再発見等を生み出す

【取組内容】

- しまね留学合同説明会 [東京・大阪・福岡・名古屋・広島]
 - ・ 地域みらい留学フェスタ ((一財)地域・教育魅力化プラットフォーム)
 - ・ しまねUIターンフェア (しまね定住財団)
- しまねの高校巡りバスツアー [高校4校×3コース]



「地域との連携・協働による新しい高等学校」をつくる体制の構築

3つの機能を持つ「高校魅力化コンソーシアム」により、「社会に開かれた教育課程」を実現し、「主体的・対話的で深い学び」を生み出す～【教育の魅力化】

高校と地域の協働体制【高校魅力化コンソーシアム】

経営的機能

- コンソーシアムのマネジメント
・各機能間の調整 ・外部資金獲得 等
☺コンソーシアム運営マネージャー

高校教育的機能

- カリキュラムのマネジメント
- 探究的な学びの推進
- 校内での地域協働意識の醸成
☺地域連携担当教員
☺探究コーディネーター

地域創生的機能

- 地域資源活用研究
- 地域留学
- 他校生、卒業生とのつながり構築
☺社会教育主事
☺魅力化コーディネーター

島根県教育委員会



支援
走



意見
提案

支援
参画



協働
提案

市町村(首長部局等)

参画・協働



情報共有・課題解決

小中学校・大学・公民館・地域運営自主組織・民間団体・NPO・企業等



【社会に開かれた教育課程の実現】
と【高校を核とした地域創生】
の持続可能な好循環を生み出す